

これだけは知っておきたい 自分のがんのこと⑤

名古屋市立大学病院 化学療法部
小松 弘和

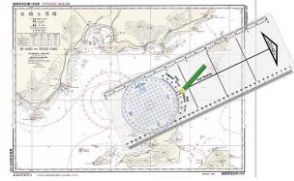


がんの告知

33

- 特別な理由がない限り、主治医から、患者さんとご家族に、診断された時点で、「がん(肺がん、胃がん等)」と告知する。
- 同時に、推奨できる治療法を、副作用等とともに説明する。
- 患者本人から希望がなければ、生命予後(治癒しない場合の余命)や、治癒率は告げないことが少なくない。
- 患者本人が、十分な理解が困難な状態にある場合には、家族(キーパーソン)に説明を行う。

がんに向き合う心構え



- 今、自分がどこにいるのか
- 今、自分がどこを目指すのか
- ベネフィットとリスクのバランスを常に考える
- 問題解決志向型→目的施行型
- 病気に主導権を握らせない
- 他の人と比較しない
- キーパーソンとともに
- 医療者との良好な関係を維持
- Hope for the best, prepare for the worst